論文

岡山地域におけるESDの成果と課題

池田満之

岡山地域では、2005年に岡山ESD推進協議会を創設して以降、全市域的にESDを推進してきた。主な取り組みの概要等については、「立教ESDジャーナル（2019年３・４号）」に掲載しているが、その後の取り組みを含め、岡山地域におけるESDの成果と課題をとりまとめた。また、それらを踏まえた2030年に向けた重点取り組みを明示するとともに、筆者が取り組んだ地域に根差した岡山市京山地区での取り組みについても記述した。

１．はじめに

2002年のヨハネスブルグ・サミット（南アフリカで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」）でのユネスコ主催「持続可能な未来のための教育会合」の「ESDの背景と場面」セッションに岡山市が招かれ、筆者が岡山市特別代表として「持続可能な都市を目指して」と題した発表を行った。このサミットが契機となり、岡山ESD推進協議会の創設、国連大学からのESD推進拠点（RCE）の認定、「持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J）」への加入など、岡山地域におけるESDが推進されていった。中でも、国連「ESDの10年」（2005～2014年）の総括会議となる2014年の「ESDに関するユネスコ世界会議」を愛知県名古屋市とともに岡山市が開催地に選ばれたことが大きな原動力となり、岡山地域全体でESDが飛躍的に浸透した。岡山地域における取り組みについては、「立教ESDジャーナル（2019年３・４号）」に掲載している（友延2019）。本書は、その内容も踏まえて、岡山地域のESDの成果と課題について記述、考察する。

２．これまでの成果

岡山地域のESDは、2005年から「岡山ESDプロジェクト基本構想」に基づいて進めている。2021年に改定された「岡山ESDプロジェクト2020-2030基本構想」において目指している未来像は、「①ESDの目指す持続可能な社会づくりについて、多くの市民が理解し、行動している。②岡山地域内で自主的・積極的に活動する組織・団体の輪が広がり、持続可能な社会・地域づくりが進められている。③世界・国内・岡山県内のさまざまな組織・団体間のネットワークを活用し、ステークホルダー（組織の活動によって影響を受けるすべての利害関係者）と継続的な学び合いが行われている。」である。これまでの成果としては、以下の点が挙げられている。（岡山ESD推進協議会2021）

（１）学校や地域コミュニティを中心に市域全体でESD推進

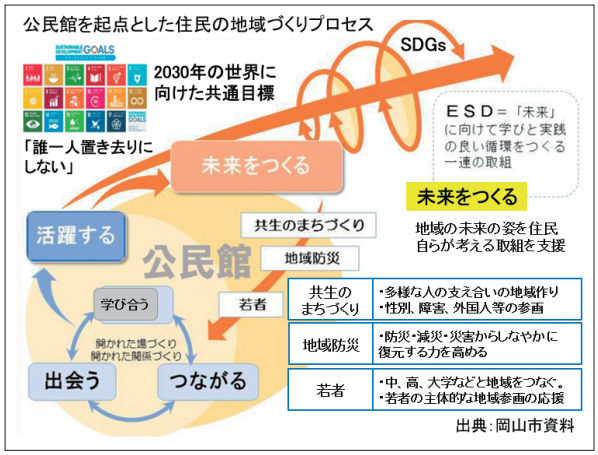
◎公民館やユネスコスクールなどのESD地域拠点において、ESDの取り組みが児童生徒や公民館利用者、教員・職員等の意識や行動の変容につながっている。

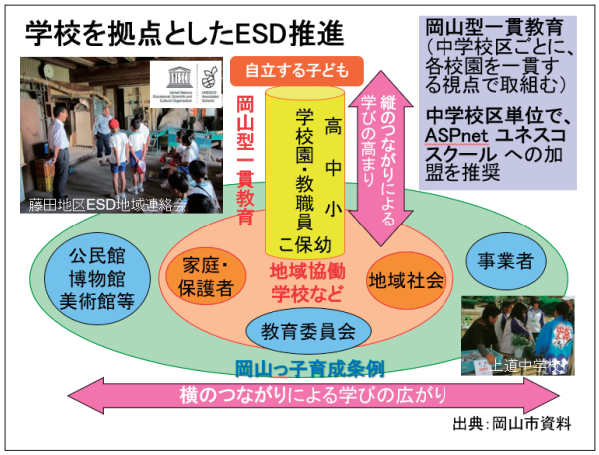
◎公民館が地域住民の「ESDを実践する場」となり、職員もコーディネーターとして地域コミュニティで活躍している。

◎小中学校ではユネスコスクールの取り組みと連携が進み、高等学校でもESDやSDGsの取り組みが加速した。

◎地域や市域全体で地域コミュニティの将来像や社会課題を話し合うワークショップ等が数多く開催されるとともに、ESD活動をコーディネートする人材が育っている。

◎地域でのESD活動が浸透し、高齢者や外国人居住者の暮らしのサポート活動、野生生物の保護活動等、持続可能なまちづくりにつながる事例が数多く生まれている。





（２）あらゆる世代、多様な団体の参加

◎岡山ESDプロジェクトへの参加団体数が増加（2005年：19団体→2021年：323団体）し、岡山地域全体に活動の輪が広がるとともに、連携した取り組みが多く生まれている。

◎ユースに向けたESDやSDGsの取り組みに多くの若者が集まり、持続可能な社会の担い手の裾野が広がった。

◎ステークホルダーの活動分野が、岡山ESDプロジェクトの開始当初に比べ、様々な分野に広がりを見せている。

◎「ESD岡山アワード」に、５年間で385件の応募があるなど、国内外の多様なステークホルダーへと広がっている。

（３）広域的な交流やESD活動による社会づくり

◎岡山ESDプロジェクトに係る様々な活動や組織が、ESD関連の広域的な顕彰・表彰を受けるなど、岡山地域は国内外のESDをリードする存在になった。

◎RCE等の国際会議に参加し、岡山地域の取り組みを発信するとともに、大学等と連携してESD関連の国際会議を継続して開催するなど、世界のESD推進に貢献している。

◎国内外のESD関係者と事例の共有や交流を行うことで、新たな気づきが生まれ、活動内容がより深まった。

３．取り組むべき課題

岡山市の市民意識調査結果によると、ESDの認知度は「ESDに関するユネスコ世界会議」があった2014年頃をピークにしてその後は減少し、2019年にはピーク時の半分程度にまで低下している（表１）。ただ、2019年の調査ではSDGsの認知度も調査しているが8.6％で、ESDの認知度の方が倍以上高い点は、ESDを推進してきた岡山らしい結果と言える。（岡山市2020）

表１　岡山市市民意識調査結果（ESDの認知度）

調査年度	2013	2015	2017	2019
ESD認知度（％）	15.4	37.1	24.8	18.8
サンプル数	2,525	5,417	5,241	5,224

（出典：岡山市）

2014年の世界会議での盛り上がりが非常に高かった分、その後はトーンダウンしたように見えるが、岡山地域ではその後もESDを進展させるための様々な取り組みを行ってきている。ESDの推進に関する条例の制定（2014年）、岡山市役所内に専門部署としてESD推進課を設置（2020年度よりSDGs・ESD推進課に改組）、岡山ESD推進協議会（RCE岡山）の事務局を岡山市が担うことで、whole city approachによる地域全体での持続可能なESDを推進してきた。その結果が、2016年の岡山ESDプロジェクトのユネスコ/日本ESD賞の受賞、2017年の岡山市のユネスコ学習都市賞の受賞、2018年の岡山市のSDGs未来都市の認定へとつながっている。岡山地域としては、「ESD for 2030」の着実な実施に向けて、さらに取り組みを継続、発展させていきたいと考えている。主な今後の課題は、以下の通りである。（岡山ESD推進協議会2021）

①地域コミュニティにおけるESD活動の連携をより一層深め、地方創生・地域活性化の視点も踏まえつつ、地域課題がSDGsと密接に関連していることを意識して、持続可能な社会づくりに取り組む必要がある。また、ESDとSDGsとの関係なども含めた発信の充実が求められる。

②SDGsが、経済・社会・環境の３側面でバランスの取れた社会を目指す目標であることを踏まえ、環境問題や多文化共生、伝統文化の継承など多様な社会課題が複雑化している現状に対し、課題解決に積極的に取り組む人材の育成を強化することが重要になる。

③新型コロナウイルス感染症の拡大は、価値観の多様化や市民の意識、行動を大きく変化させた。現状の課題を把握し、課題解決に向けた取り組みを図っていく必要がある。

④ESDに関連する各分野の中間支援組織との連携を更に促進しつつ、引き続き各地域のESD推進ネットワークの拡充強化を図るとともに、ESD活動の連携･協働を進め、各分野間の相乗効果を高める必要がある。

⑤日本経済団体連合会の「企業行動憲章」の改定などを受け、民間企業におけるSDGsの達成を意識した取り組みが加速する中、これまでに構築されたネットワークと民間企業との連携が促進されることが望まれる。

⑥「ESD for 2030」という新たなESD推進の枠組みを踏まえ、引き続き国際的なESDの推進に積極的に貢献するとともに、海外のステークホルダーとの交流や国内外への情報発信を進めることがより一層重要になる。

４．重点取り組み

岡山ESD推進協議会では、これまでの成果と課題を踏まえて、下記の項目について重点的に取り組む方針である。（岡山ESD推進協議会2021）

①持続可能な地域づくりの推進…「岡山ESDプロジェクトに参加する各種団体が、相互に情報交換や交流を行う機会を創出し、連携・協働を促進する」など。

②SDGs達成に向けた実践…「SDGsの全ての目標達成に向けたESDの役割を強調し、周辺自治体等の多様なステークホルダーと連携して持続可能な社会づくりを学び実践行動につなげる機会を創出する」など。

③ユース・人材育成…「大学やＮＰＯ、公民館等と連携して、大学生などの若い世代のESD実践者を増やす取り組みを進める」など。

④地域コミュニティ・公民館・学校でのESDやSDGsの推進…「公民館におけるESD活動を一層推進し、地域や学校、公民館の連携を図る」など。

⑤優良事例の顕彰…「ESD活動の顕彰のため、『ESD岡山アワード』を実施する」など。

⑥ESD活動の拡大…「ESDに取り組む中間支援組織との連携を強化し、ネットワークのハブ機能を活かしながら、地域横断的な活動拠点の拡大を図る」など。

⑦企業・経済団体の取り組み促進…「経済団体と連携し、ESDやSDGsに取り組む企業等の情報を広く発信することで、持続可能な社会づくりの取り組み拡大を図る」など。

⑧海外や国内との連携…「国内外のＲＣＥ地域と連携してESD活動の共有や交流を進める」など。

５．地域に根差したESDの推進

SDGsの達成を目指したESDの取り組みにおいては、地球規模の視野をもって、いかに足元の地域で取り組んでいくかが鍵となる。筆者が自分の足元である岡山市京山地区で行ってきた取り組みについて記述する。

京山地区ではESDによる地域総働型の持続可能な地域づくりの取り組みが、約20年継続して進展してきている。これを可能にしたポイントとしては、以下の４点が挙げられる。

①学校教育と社会教育と地域コミュニティによる協働の仕組みを確立し、誰でも参加できる場、活躍できる場、社会を変えていく受け皿を、公民館を拠点につくった。

②地域の実状とニーズを適確に把握し、目指す地域像（目標）を確立した。

③取り組みを体系的に整理・可視化し、地域全体で共通認識をもって持続発展的に取り組めるようにした。

④取り組みが行政や地域コミュニティの施策に反映する仕組み、次世代を担う子ども達の声が地域づくりに反映される仕組みを確立した。

具体的には、京山地区ESD・SDGs推進協議会の設立、京山地区ESD・SDGsフェスティバルの開催、京山地区が目指す地域像の設定、取り組みの全体像や進捗状況を可視化した総括シートの作成、京山ESD・SDGs対話や地域の絆プロジェクトの実施などを行っている。

なかでも、行政・学校・地域のキーパーソンが一堂に会して、地域の子どもから高齢者までの地域住民とともに対話する京山ESD・SDGs対話などにより、ESDが持続可能な地域づくりの具体的な施策へ結びつき、実行されていくことを可能にしている。観音寺用水「緑と水の道」のように、ESDから具現化された公共空間も生まれてきている（国土交通省「手づくり郷土賞」を受賞）。ESDを推進する地域協議会がつなぎ役になり、県と市と教育機関（学校・大学）と地域コミュニティが７年にわたるESDによるプロセスを経て具現化させた点は、目に見える象徴的なモデルケースとなっている。

京山地区でも、環境と社会だけでなく経済的にもバランスのとれた地域循環共生圏の取り組みをこの地域に合った形でどう進めていくかといった課題を抱えている。課題の中には地域内だけで解決するのが難しいものも多いが、岡山地域には岡山ESD推進協議会があるため、ここを通して国内外のESD・SDGs関係のネットワーク所属団体や専門家の援助などを受けることができる強み（長所）がある。

また、筆者が受け持っている京山地区のノートルダム清心女子大学での講義と、京山地区のESD・SDGs活動を融合化させていくことで、相乗効果を高めていく試みも進めている。「人材育成論」、「わたしたちの社会と科学」、「地域創生論」、「ボランティア実践」等の授業と、京山地区の活動を絡ませていくことで、学生達には座学上の学びだけでなく、地域社会の中での実践学習が加わり、より学習を深められている。こうした融合化は、小中高校の学習指導要領等にあるカリキュラムマネジメント、開かれた教育課程などにも通じている。

6．考察

（1）協議会参加組織へのアンケート結果より

岡山ESD推進協議会では、2018年度に協議会参加組織（学校や公民館を含む）を対象にアンケート調査（岡山ESD推進協議会事務局2020）を実施している。それによれば、ESDの取り組みによる組織関係者の変容は、「意識や行動とも、あまり変化が見られない」は４％で、「組織内全体で行動の変化が進んでいる」が44％と半数近くに及んでいる。「意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない」は36％で、行動変容にまでもっていくことの難しさを示している。

ESD活動による学校の変容は、「地域との関係が深まってきた」が86％に達していたが、「ESDに教科横断的に取り組むことができた」は49％で、教科横断的に取り組むことのハードルの高さを示している。そういう点で、学習指導要領にカリキュラムマネジメントが盛り込まれたことは大きな意義がある。

ESD活動による公民館職員の変容は、「公民館の事業をESDの視点を活かして企画・実施できるようになった」が87％に及んでいて、ESD推進に公民館が大きく貢献していることを裏付けている。もっとも、そのための人材の育成を公民館職員研修でもESDコーディネーター養成研修でも行っている効果も大きい。いかに人材育成を行っていくかが鍵となる。

ESDの取り組みに参加してきた学習対象者の持続可能な社会づくりに関する意識や行動の変容は、「行動の変化が進んでいる」と「意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない」がともに36％で、「意識や行動とも、あまり変化が見られない」は０％であったことから、徐々に地域全体へ広がっていることがうかがわれる。

ESD活動による児童生徒と住民の変容は、「地域に対する愛着心を抱くようになった」児童生徒が84％に、「地域に対する愛着心が高まった」住民が69％に及んだ。さらに、「地域に貢献したいという気持ちを持つことができるようになった」児童生徒が67％に、「地域に貢献したいという気持ちを持ち、行動する住民が増えた」が50％を示した。こうした数値から、地域に対する愛着心を高め、地域に貢献したいという気持ちを醸成するなど、岡山地域でのESD活動は持続可能な社会の創り手を育む効果が高いと考えられる。

（2）ESDサイト利用者へのアンケート結果より

岡山市は、2021年度にESDサイト「おかやまESDなび」の利用者を対象にアンケート調査（岡山市ESD推進協議会事務局2021）を実施している。それによれば、サイト利用者の多くがESDとSDGsに関する取り組み情報を求めてサイトを利用していることがわかった。中でも、サイト利用者がもっとも取り上げてほしい情報として挙げたのは、「気軽にできるSDGs達成に向けた取り組み紹介」で66％に及んだ。それ以外はすべて20％以下であることから、自分自身で身近にできるSDGs達成に向けた取り組みをしたいと思っている人がいかに多いかを示している。

SDGsには17の目標があるが、どの目標に興味があるかについては、「目標３：すべての人に健康と福祉を」が47％ともっとも多く、次いで「目標11：住み続けられるまちづくりを」が41％と多かった。逆に１番少なかったのは、「目標17：パートナーシップで目標を達成しよう」で11％だった。目標３が１番多いのは、岡山市の「SDGs未来都市」の認定が目標３でとられているように、岡山地域にとって大きな課題となっていることに起因していると考えられる。また、目標17に対する興味の低さが、多様なステークホルダーが思うように連携して取り組めていない現状の難しさを示していると考えられる。

（３）大学における学生へのアンケート結果より

筆者が受け持っている大学の授業の中で、毎年、ESDとSDGsの認知度等について調査しているが、2020年以降は、それまでと大きく変化してきている。調査結果を表２に示す。

表２　ESD、SDGsという言葉の認知度調査結果（NDSU）

調査年度	2018	2019	2020	2021
ESD認知度（％）	23	26	62	66
SDGs認知度（％）	-	20	85	94
サンプル数	59	239	85	101

※NDSU…ノートルダム清心女子大学
（出典：NDSU「人材育成論」池田満之担当授業での調査結果）

ノートルダム清心女子大学は、岡山市京山地区にある大学で、この科目の受講生（８割以上が１年生）を見ると、岡山県内出身者が全体の約７割を占めている。このため、岡山地域における学生の特徴をある程度よく表していると言える。ここで注目したいのは、ESDとSDGsの認知度が2019年から2020年の間に飛躍的に上がっていて、その後もさらに上がっている点である。その要因を2021年７月に行った学生へのアンケート調査から把握した（有効回答数：62）。

調査結果から、認知度が高まった背景に、テレビやインターネットなどを通したマスメディアによる影響が大きく関わっている実態が見えてきた。マスメディアに挙がった内容の中では、2019年から2020年にかけては東京オリンピック2020関係と16歳のグレタ・トゥーンベリさんのスピーチの影響が大きく、2020年から2021年にかけては新型コロナウイルス感染症のパンデミック（コロナ禍）とレジ袋の有料化が大きく影響していた。このほかに、学習指導要領などにESDやSDGsが導入され、全国的にも2019年あたりから学校においてESDやSDGsを取り上げることが増えてきていたことも、ESDやSDGsの認知度が高くなった大きな要因と考えられる。このことは、ESDやSDGsをどこで知ったかの問いに、学校を一番に挙げている学生が多い点からもわかる。学生へのアンケート調査からも、結果的にコロナ禍による社会変化がESDやSDGsの認知度を大きく高める一因になったと考えられる。

７．おわりに

ESDもSDGsも、いかに人の心に働きかけ、「共感」を得るかで広まっていく。インターネットが普及し、世界中の多くの人がSNSを日常的に利用している今日、InstagramやYouTubeなどで万単位の人がつながりあっている根底には「共感」が存在している。岡山ESD推進協議会は、市をあげてESDを推進（whole city approach）したことなどが評価されて2016年に「ユネスコ／日本ESD賞」を受賞した。聖心女子大学の永田佳之教授は、ブログに「世界的に見れば、岡山は持続不可能性と〈闘う〉都市ではないでしょう。でも、そこには放っておいたら大きくなってしまうかもしれない〈小さな持続不可能性〉が普通にあり、その一つひとつを市民が行政と手をたずさえて達成感や幸福感に変えていっている。」（部分抜粋）（永田2017）と書いている。岡山地域としては、2030年に向けてESDをさらに地域全体で促進し、みんなが困らない社会を目指していきたい。

【引用文献】
岡山ESD推進協議会（2021）『岡山ESDプロジェクト2020-2030基本構想』
岡山ESD推進協議会事務局（岡山市ESD推進課）（2020）『岡山ESDプロジェクト2015-2019の取組状況に係る報告』（内部資料）
岡山ESD推進協議会事務局（岡山市SDGs・ESD推進課）（2021）『「おかやまESDなび」HPアンケート結果報告』（内部資料）
岡山市（2020）「第17章 ESD・SDGsについて」『岡山市市民意識調査報告書 -第18回 令和元年度-』pp.129-131
友延栄一（2019）「岡山地域におけるESDの取り組み　―ESDの10年を越えて―」『立教ESDジャーナル（2019年３・４号）」立教大学ESD研究所pp.16-17
永田佳之（聖心女子大学）ブログ（2017）「岡山市が「ユネスコ／日本ESD賞」を授賞した〈もう一つの理由〉」『学びのエコロジー』 http://nagata8.blog81.fc2.com/blog-entry-77.html

【参考文献】
池田満之（2017）「岡山市京山地区における地域総働型のESD活動による地域創生」『ESDの地域創生力　持続可能な社会づくり・人づくり９つの実践』合同出版pp.115-129
池田満之（2020）「岡山市京山地区ESD推進協議会におけるESDの取り組み」『SDGs自治体白書2020』生活社pp.178-187
池田満之（2020）「ESD・SDGsに関する動向・政策の流れ」『ESDがグローバル社会の未来を拓く　―SDGsの実現をめざして―』ミネルヴァ書房pp.1-17

池田満之（いけだ・みつゆき）岡山ESD推進協議会（RCE岡山）運営委員長、岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会会長、岡山ユネスコ協会会長、ノートルダム清心女子大学等非常勤講師、ESD-J副代表理事。技術士（総合技術監理部門・建設部門・環境部門）で環境カウンセラー（市民部門・事業者部門）。専門は、環境教育とESDと社会教育だが、関連してSDGsや地域創生などに関わることも多い。